

人の幸せを考える “いのちの科学”

公益財団法人千里ライフサイエンス振興財団

Senri Life Science Foundation



2018年1月19日開催 国際シンポジウム「A New Horizon of Cancer Immunotherapy」

ライフサイエンスの時代

いま目指しているものはテクノロジーではなくて、ライフサイエンス。

つまり“いのちの科学”

—— 心の問題を含めて人間が幸せになるためのサイエンスです。

山村雄一



公益財団法人 千里ライフサイエンス振興財団

理事長 岸本 忠三

“大阪北部の北摂地区を生命科学(ライフサイエンス)のメッカにしたい”——

私の恩師でもある故山村雄一先生は、大阪大学総長のときにこのような気宇壮大な構想を描かれました。さらに、この中で山村先生は、その中核機能として「アカデミックな“赤ちょうちん”」を創りたいとも言われました。これは、産学官のライフサイエンスの研究者など関係者が、各々の組織を超えて親しく自由闊達に情報や意見を交換し、議論する「知の交流拠点」を創るというものです。

当千里ライフサイエンス振興財団は、この精神の下に、産学官の人材と資金を結集して、平成2年7月に設立されました。

大阪北部地域には、大阪大学医学部、大阪大学免疫学フロンティア研究センター(IFReC)、国立循環器病研究センター、医薬基盤・健康・栄養研究所、理化学研究所などの医療・研究機関や製薬企業の研究所・工場が集積し、さらに、彩都ライフサイエンスパーク、北大阪健康医療都市(健都)など、拠点の形成が進んでいます。

こうした中、平成22年に公益財団法人となりました当財団は、「知の交流拠点」としての役割をより一層果たすため、ライフサイエンス分野における研究人材の育成、研究助成・支援、普及啓発、実用化支援などの各方面にわたり、先進性・公益性の高い事業を発展・拡充させてまいりました。

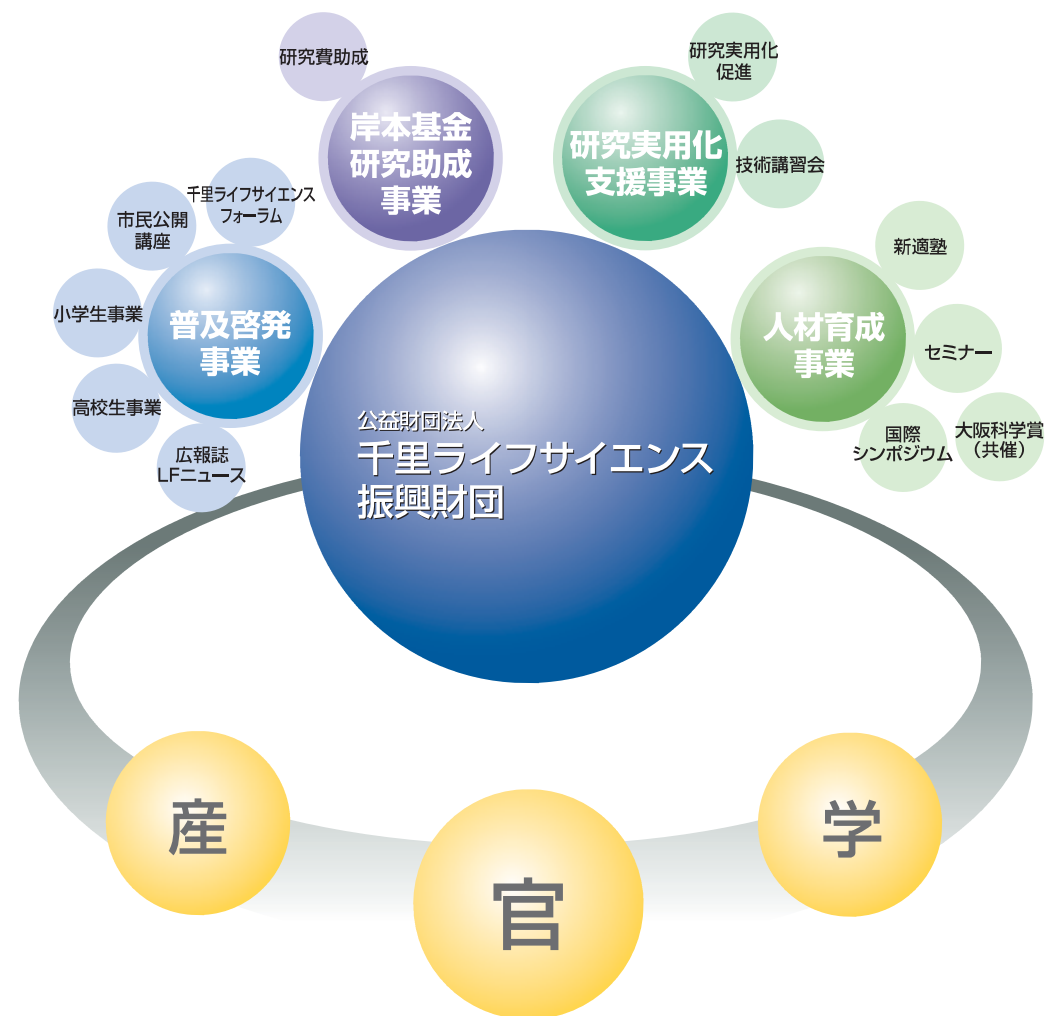
生命の仕組みを研究するライフサイエンスの分野は広範な学問領域にわたり、その成果は、医療や保健はもとより、環境や食糧など、人間生活の根底を支え、豊かで幸せな人間社会を実現していくために大きく貢献することが期待されています。それも、科学として基礎のしっかりした研究を営々積み重ねるその先に初めてあるものと私は考えております。

こうしたライフサイエンスにおける基本を絶えず念頭に置き、今後とも、一層の事業の充実に取り組んでまいりたいと考えております。

昨今の新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、当財団においても各種事業はリアル開催が適わずWebを通じた開催といたしました。その一方で、Web開催により多くの方々やより遠方の方々に参加しやすくなりました。今後のポストコロナの事業展開については、リアル開催とともにこれらWebの強みを活かした開催を通じ、大阪のみならず全国から多くの方にご参加いただけるよう取り組んでまいりたいと考えています。

これまでも、当財団は産学官各方面の多大なご協力を得て発展してまいりましたが、今後一層公益性を最大限に発揮し、人類社会に貢献してまいりたいと考えておりますので、皆様方におかれましても、当財団の活動に一層のご支援、ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

事業内容



人材育成事業

次世代のライフサイエンス分野の研究を担う創造性・独創性豊かな若手研究者の育成と研究者の質的向上に貢献しています。

●千里ライフサイエンスセミナー

講師に第一線のライフサイエンスの専門家複数名を招き、先端的な研究をテーマに最新の研究成果・動向などを紹介、発表しています。登壇される研究者には大隅良典先生や山中伸弥先生などのノーベル賞受賞者もおられます。最近では産業界からも専門家を招いて創業に関する講演をいただくことも多くなってきました。コロナ禍ではWeb配信により本セミナーを継続し、従来にも増して全国から多くの方々にご参加をいただき、好評をいただいております。

千里ライフサイエンスセミナーの一環として、2年毎に1回、海外から著名な研究者に集まっていただき、世界最先端の研究内容の講演をいただく「国際シンポジウム」も開催(英語開催)いたします。



セミナー



国際シンポジウム(2018年)

●新適塾

「何でも聞けて本音で話す」、「何を訪ねても恥ずかしくない」気軽な雰囲気若手研究人材が自由闊達に議論できる場として、夕方から講演会を行い、講師を囲んだ懇談会も行ってきました。この新適塾は「脳はおもしろい」、「難病への挑戦」、「未来創業への誘い」という3つのテーマを交代で毎月開催しています。

現在、コロナ禍の影響を受けてWeb配信を行っておりますが、その利点を活かし海外で活躍される日本人研究者の講演も織り交ぜて、全国から非常に多くの方々にご参加いただいております。



新適塾

●大阪科学賞(共催)

創造的科学技术の振興を図り、21世紀の新たな発展と明日の人類社会に貢献するため、それを担う極めて有望な研究人材を、「大阪科学賞」として顕彰しています。(大阪府、大阪市、(一財)大阪科学技術センターと共催)

岸本基金研究助成事業

当財団の研究助成は、2010年度より「岸本基金」から寄附を受け「岸本基金研究助成」として応募受付しています。ライフサイエンス分野の優れた研究に対し研究費助成を行うことにより、研究活動の活性化、新しい研究活動の萌芽へと発展し、その成果がひいては産業の活性化、市民生活への還元へと続くものと確信しています。

次の①～③を基本的な分野とし、独創性・先行性があり、かつライフサイエンス振興への波及効果が期待できる若手研究者に毎年1件200万円、15件程度助成しています。

- ① 生命現象の解明
- ② 健康の維持増進と疾病の予防・治療
- ③ 生物およびその諸機能の産業への応用



岸本基金研究助成
10周年誌

研究実用化支援事業

ライフサイエンス分野における研究とその実用化・事業化を促進・支援しています。

●実用化に向けた研究支援

橋渡し研究戦略的推進プログラムの基礎課題及び異分野融合型シーズのうち、大阪大学以外の案件について研究計画・進捗状況をインタビューして助言、企業への繋ぎ活動等により実用化支援を行っています。

●ライフサイエンス産学官連携

創薬・基盤技術の有望なシーズを持つアカデミ研究者に成果発表の場を提供し、研究テーマに感心のある製薬企業等との意見交換・交流による研究成果の事業化促進をめざしています。

●技術講習会

アカデミア、ベンチャー・中小企業の若手研究者を対象に、ライフサイエンス分野の最新の実験技術・先端機器等に関して、当該分野の著名研究者による講義に加え、実技実習や実機操作を経験できる機会を提供し、若手研究者の研究能力の向上を図っています。



実験技術の講義



先端機器を用いた実技実習

普及啓発事業

一般市民や、児童・生徒に、学び、研究者等と交流する機会を提供するとともに、ライフサイエンスに関する知識・情報や、当財団の使命、役割等を普及啓発するため各事業を行っています。

●千里ライフサイエンスフォーラム

一般市民(産・学・官も含む)を対象に、幅広く教養の向上と交流を図るため、ライフサイエンスのみならず様々な分野の第一線で活躍する研究者を講師として招き、フォーラム(講話)を8月を除いた毎月開催しています。

現在、コロナ禍の影響を受けてWebで録画配信を行っております。約1か月間配信していますので何度も視聴し勉強できると好評をいただいております。

千里ライフサイエンスクラブ会員(年会費あり)は、無料でご視聴いただけます。



Web録画配信撮影風景

●市民公開講座

一般市民(産・学・官も含む)を対象に、ライフサイエンスに関する身近で要望の多いテーマを取り上げ、年に2回公開講座(無料)を開催し、正しい知識を分かりやすく普及しています。

現在、コロナ禍の影響を受けてWebライブ配信を行っておりますが、その利便性から関西圏に限らず全国から多くの方々にご参加いただいております。



パネルディスカッション(Web配信)

●小学生・高校生事業

小学生や高校生(中学生を含む)に向けて、生命・自然科学に対する知的好奇心や向上心等を醸成することを目的に普及啓発事業を計画し、未来のライフサイエンスの発展を担う次世代の人材育成をめざしています。

小学生事業では大学教官が指導する興味深い実習・実験を経験する機会を設けており、高校生事業ではセミナーや出前授業を行っています。



小学生サイエンススクール



高校生出前授業

●広報誌「千里ライフサイエンス振興財団ニュース」

千里ライフサイエンス振興財団ニュースは年3回の発行を基本として、財団の事業活動を広く伝えるというだけにとどまらず、広報誌自体を知の交流の場とするため、ライフサイエンスに人間的なぬくもりを感じていただけるような誌面づくりをめざしております。毎号の記事の大きな柱と位置づけているのが「巻頭対談・EYES」「解体新書」「Relay Talk」の3つの企画記事です。また、財団主催の各種の催しもの報告や告知なども充実させています。これからも、広報誌を通じて、科学の楽しさ、レベルの高い日本の研究、そして研究者たちの魅力を多くの方々にお届けいたします。



大阪北部に広がる ライフサイエンスの知的インフラ

大阪北部地区は、千里ライフサイエンスセンターをはじめ、大阪大学、彩都ライフサイエンスパーク、北大阪健康医療都市(健都)などライフサイエンス分野に関する優れた大学研究機関等が集積し、高いポテンシャルを有しています。



1 財団が活動の拠点とする 千里ライフサイエンスセンタービル

大阪北部に広がるライフサイエンス分野の研究・施設の入口に位置し、全国的な会議やセミナーの開催に適した環境を提供しています。

2 大阪大学

11学部16研究科、6附属研究所、2附属病院を有する我が国屈指の総合大学で、特に免疫研究が有名。バイオメディカル分野に卓越し、多くの研究者を輩出しています。研究成果の産業化にも積極的に取り組んでいます。

3 大阪大学医学部附属病院

大阪大学医学部附属病院は、良質な医療を提供するとともに、医療人の育成と医療の発展に貢献することを理念とする、先進医療開発病院です。

4 大阪大学微生物病研究所

大阪大学微生物病研究所は、感染症、免疫、がん研究において医科学・生物学分野における研究を牽引してきました。現在はこれらの研究分野に加え遺伝子工学、ゲノム解析学など多様な分野の研究を展開しています。



5 大阪大学 蛋白質研究所

大阪大学蛋白質研究所は、蛋白質の基礎研究を通じて生命活動の原理を明らかにすることをめざし、産業界も含めた国内外の研究者との施設や機器の利用を含めた共同利用・共同研究の推進と人材育成を進めています。

8 国立研究開発法人 理化学研究所生命機能科学研究センター

理研BDRでは、ヒトをはじめとした生命体を、分子・細胞・臓器の連関による調和のとれたシステムとして捉え、個体の一生を支える生命機能の解明を目指します。生きた細胞の中の分子動態の分析やシミュレーションのための要素技術の開発を通じて、次世代の生命科学を推進します。



6 大阪大学 免疫学フロンティア研究センター

大阪大学免疫学フロンティア研究センターは、世界トップレベル研究拠点(WPI)として発足した免疫学研究の国際拠点です。2017年に10周年を迎え、先端的基礎研究とその医学への展開を加速しています。

9 彩都バイオ インキュベーション施設

主に大学発バイオベンチャーや新事業を展開する企業等の育成・支援のため、彩都ライフサイエンスパークに「彩都バイオインキュベータ」、「彩都バイオインキュベーションセンター」、「彩都バイオビルズセンター」を開設。施設運営に民間のノウハウやネットワークを最大限に活用して、総合的なインキュベーション支援を実施しています。

7 国立研究開発法人 国立循環器病研究センター

循環器病の究明と制圧を目標に設立された国立高度専門医療センターです。心臓血管疾患と脳血管疾患の診療と研究の専門家、及び企業が連携して治療成績の向上や新たな技術開発に取り組んでいます。

10 国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所

医薬品技術及び医療機器等技術の向上のための基盤の整備、並びに国民の健康の保持及び増進や国民の栄養その他国民の食生活に関する調査及び研究等を行うことにより、国民保健の向上に資することを目的とした事業や、健康増進法に基づく業務を行っています。

沿革

- 1988年 8月 千里ライフサイエンス振興財団設立準備委員会発足
山村雄一 会長就任
- 1990年 7月 財団法人 千里ライフサイエンス振興財団設立(大阪府知事許可)
岡田善雄 理事長就任
- 9月 設立記念講演会「21世紀のライフサイエンスに向けて」開催
- 11月 研究助成事業開始
- 12月 広報誌「LFニュース」創刊、千里ライフサイエンスセミナー 開始
- 1991年 3月 千里ライフサイエンス市民公開講座「成人病シリーズ」開始
- 8月 千里ライフサイエンス技術講習会 開始
- 11月 オープンラボ、ビジネスインキュベータ施設入居者の募集開始
- 1992年 6月 千里ライフサイエンスセンタービル竣工
- 7月 千里ライフサイエンスセンター千里ライフサイエンス振興財団の事務所を8階に移設
- 9月 千里ライフサイエンスサロンフォーラム 開始
- 10月 竣工記念国際シンポジウム「ライフサイエンスの進展とこれからの健康」開催
- 1994年 4月 新適塾(神経懇話会)開始
- 1995年 7月 新適塾(21世紀の葉箱)開始
北大阪におけるライフサイエンスの振興調査(平成7年度)
- 1997年 7月 小学生事業「千里ネイチャー・カレッジ」開始
- 2000年 10月 設立10周年記念シンポジウム「21世紀のライフサイエンスのフロンティアを展望して」を開催
- 11月 千里ライフサイエンスフォーラムが通算100回となる。
- 2002年 7月 知的クラスター創成事業-第I期-(文部科学省補助事業)開始
- 2007年 3月 岸本忠三 理事長就任
- 6月 知的クラスター創成事業-第II期-(文部科学省補助事業)開始
- 11月 千里ライフサイエンス第100回記念セミナーを開催
- 2008年 5月 岡田善雄前理事長(特別顧問)追悼シンポジウムを開催
- 9月 千里ライフサイエンス振興財団の事務所を20階に移転
- 2009年 3月 千里ライフサイエンスフォーラムが通算200回となる
高校生事業「ライフサイエンスセミナー：研究者と語ろう」開始
- 2010年 1月 国際シンポジウム「Future Outcome of Stem Cell Reseach today」開催
- 4月 公益財団法人へ移行 岸本忠三 対談集「千客万来」発刊
- 2012年 1月 国際シンポジウム「Cutting-edge of Autophagy Study」開催
地域イノベーション戦略支援プログラム開始(文部科学省補助事業) 高校生出前授業 開始
- 2013年 12月 岸本忠三 対談集「新版 千客万来 ライフサイエンスのトップランナー16人と語る」発刊
- 2014年 1月 国際シンポジウム「Innate Immunity, Cytokines, and Immune Regulation」開催
- 2015年 9月 国立国会図書館にLFニュースの納本開始(バックナンバー含む)
- 2016年 1月 国際シンポジウム
「Frontiers in Structural Biology - X-ray Free Electron Laser and Drug Discovery」開催
- 2017年 9月 千里ライフサイエンスフォーラムが通算300回となる
- 2018年 1月 国際シンポジウム「A New Horizon of Cancer Immunotherapy」開催
- 8月 岸本忠三 対談集「先客万来Ⅲ ライフサイエンスのフロンティアを拓く13の物語」発刊
- 2020年 1月 国際シンポジウム「Recent Advance in Cancer Genomics」開催
- 7月 千里ライフサイエンス振興財団設立30周年 LFニュース30周年記念特集号発刊
- 9月 セミナー・新適塾・フォーラムをWeb形式(オンライン)で開催開始
- 10月 市民公開講座をWeb形式(オンライン)で開催開始
- 2021年 5月 「岸本基金研究助成10周年誌」発刊
- 6月 岸本基金研究助成の電子申請を開始



設立時の千里ライフサイエンスセンタービル外観

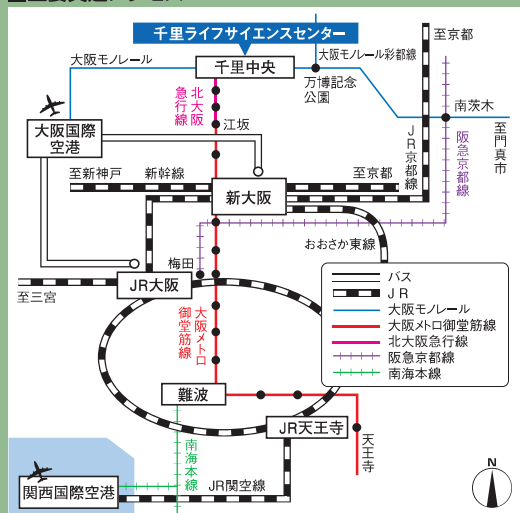


1階エントランスにある山村雄一氏の記念碑
「天の時、地の利、人の和」

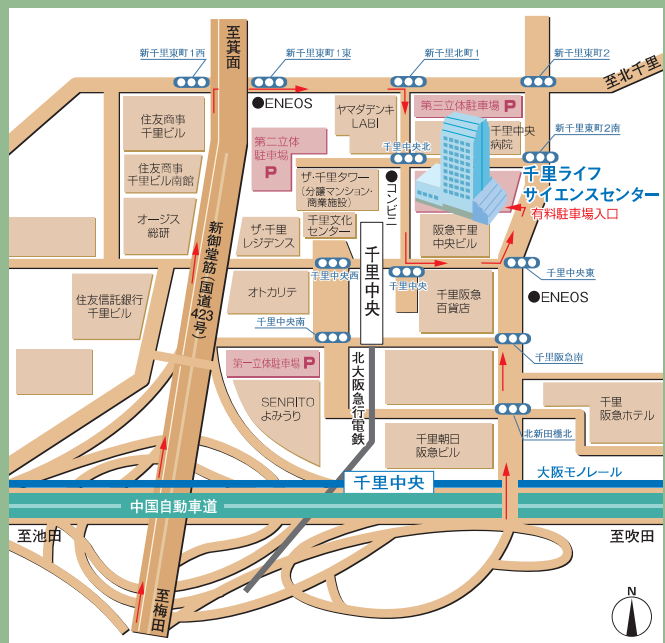


5階山村雄一記念ライフホール

■主要交通アクセス



- 地下鉄千里中央駅、北出口すぐ(大阪メトロ御堂筋線→北大阪急行線)
- 大阪国際空港からクルマで約15分
- 大阪国際空港から大阪モノレールで約13分(南茨木から約11分、門真市から約24分)
- 新大阪駅から大阪メトロで約13分
- 大阪梅田から大阪メトロ御堂筋線で約19分



公益財団法人 千里ライフサイエンス振興財団

〒560-0082 大阪府豊中市新千里東町1-4-2
 千里ライフサイエンスセンタービル20階
 TEL 06(6873)2001 FAX 06(6873)2002
<http://www.senri-life.or.jp>